

パッションがパッションに、そして、「代理受難」も
「2016年12月7日夜のでんぐり」のみなさまへ

このごろ考えなくなってしまうこと（封印しちゃっていること）を
考えさせられて、とてもためになりました。

みなさまからいただいたレポート、素晴らしいですね。
いろいろ感動しちゃいました。

漠然と思っていた、「受難（パッション）が、熱心さ（パッション）となり、でんぐりを生む」
という感覚が、みなさんと再発見・共有できたのは、とてもわくわくなことでした。
「それぞれの人の意識のでんぐりが起こり、それがかたちを変えて社会のでんぐりにつなが
っていく」ということがあるのは間違いないような気がしました。

考えが未熟なままではありますが、雲散霧消しないように書き留めておくと、
なにか「受難⇒自己意識の転換／脱自己化⇒課題の発見／使命の探求／フォロワーシップ
の発揮⇒共感とフォロワーの発生⇒取り組みが“みんなの夢”になり
社会に浸透していく」みたいな変遷のかたちが
一般にけっこう存在しているような気がします。
この辺り、だれかに研究してほしいなあ。

それから、受難は必ずしも自分のこととして起こらなくてもよくて、
支援や取材をしている中で、
感性の鋭い人は「代理受難」をして、でんぐりしていくという起こり方もあるんだと、
居酒屋さんで悟りました

（わらわらでの、問いと答えのぐるぐるの間に浮かびました）。
なので、受難がない人も安心です（笑）。わざわざ受難することもないしね。
みんなで、でんぐりしましょう。できると思います。

みなさんとお話する機会があって、新たな気づきをいただきました。
これからも「でんぐり」と「かえる」のこと、
ときどきみなさんと考えたいと思いました。
ゆきさんの「でんぐりがえし」というテーマ設定のおかげです。
いまごろようやくゆきさんの意図の一部がおぼろげに分かってきて、
ゆきさんの「でんぐり発生力」に改めて感服いたしました。

はに～

*